

平成29年度第2回北九州市立図書館協議会 会議録

1 会議名

平成29年度第2回北九州市立図書館協議会

2 議題

(1) 議事

- ① 図書館年報（平成29年）について
- ② 平成28年度図書館の評価について

3 開催日時

平成29年11月2日（木） 午前10時～12時

4 開催場所

北九州市立中央図書館 第一特別研究室

5 出席者氏名

(1) 委員（会長他9名、欠席委員6名）

北九州市立大学図書館長	中尾 泰士
北九州市私立幼稚園連盟常任理事	中村 光作
公募委員	尾場瀬 淳美
公募委員	鳥越 美奈
北九州市社会教育委員	宮本 和代
北九州市婦人団体協議会副会長	山口 万規子
北九州市A V Eの会会長	木村 健一
北九州児童文化連盟委員	柴原 佳代子
北九州市保育所連盟副会長	北野 久美
北九州青年会議所委員	末松 美緒

(2) 事務局（中央図書館館長他5名）

中央図書館館長	石神 勉
中央図書館副館長	小坪 正夫
中央図書館庶務課長	酒井 国広
中央図書館奉仕課長	福田 淳司
中央図書館視聴覚担当課長	庄 展彦
教育委員会企画調整課主幹（子ども図書館担当）	古林 節子

6 傍聴者

なし

7 会議次第

議事（報告、質疑応答）

8 会議経過（発言内容要旨）

（1）議事

① 図書館年報（平成29年）について

「北九州市の図書館（年報）平成29年」に基づき、事務局から説明。

以下、委員から意見をいただく。

（委員）

図書カード登録は増えているが、取消についてはどう取り扱っているのか。

（事務局）

図書館システム更新時、3年間利用実績のない方は削除している。

（委員）

ブックスタート事業について、40人程配布していない理由は何か。

（事務局）

母子健康手帳交付時に絵本を配布しているが、他の配布物も多いため、絵本の持ち帰りが大変と感じている母親などに対しては、その場では絵本を渡せない場合もある。しかし、後日、図書館等へ来ていただければ、お渡ししている。

（委員）

蔵書が増えていない理由は何か。

（事務局）

各図書館収納スペースには限りがあり、一部の除籍と並行して、新しい本を購入している。

今後、小倉南図書館や子ども図書館開館による収納スペース増加で、蔵書も増える見込みである。

（委員）

除籍後の本はどうなるのか。

（事務局）

破損や汚れている本は廃棄するが、まだ読める本については、市民へ還元するためのブックリサイクルを行っている。

(委員)

寄贈の受け入れは。

(事務局)

一冊ずつ状態を確認しながら、寄贈を受け入れている。ただし、既に図書館にかなり冊数がある本や、情報の古い百科事典など難しい場合もある。

## ② 平成28年度図書館の評価について

『「北九州市立図書館の評価」の実施について』に基づき、事務局から説明。

以下、視点ごとに委員から意見をいただく。

### ○視点1 多様な施設とつながる図書館

(委員)

地区図書館と市民センターなど他施設の連携実績はどうか。

(事務局)

他施設へ図書館司書やボランティアを派遣している地区館が3館ある。

若松図書館は、図書館司書4件、読み聞かせボランティア4件。八幡西図書館は、図書館司書6件。戸畑図書館は、読み聞かせボランティア89件になっている。

(委員)

今まで順調だった大学図書館との連携が、今回Cランクになっているがなぜか。

(事務局)

今までは、北九州市立大学と九州国際大学を対象とした連携だったが、新しい「これからの図書館サービスのあり方について」では、他の大学との図書館との連携になっている。他の大学との連携を進めるため、情報交換の場の設定など工夫していきたいと考えている。

(委員)

適宜、市民への情報提供をお願いしたい。

(委員)

市民センターでは、ひまわり文庫だけでなく、読書に関する様々な活動ができればいいと感じている。本の好きな子供が増えてほしい。多様な施設がバラバラでなく、つながっていくよう進めて欲しい。

(委員)

文学館企画展のようなものがあれば、あっちこちの図書館へ出向いていく。

図書館の一角では、ノーベル賞を受賞した作家展等も行っているが、館を挙げて推進するような企画があってもいいと感じた。

他施設の企画展でも、勧めていただければ出向いていくし、相乗効果があると思う。  
(事務局)

以前、文学館の司馬遼太郎展では、図書館でも司馬遼太郎作品特集を行ったこともある。美術館の安藤広重展でも、浮世絵本の紹介を行った。展示スペースに限りがあるが、できる限り対応はしていきたい。

(委員)

自分で本を探すのもいいが、「これは」という本を勧めてくれるのもいいと感じた。

(委員)

新規事業が全てB評価になっているが、もっと高いA評価でもいいものがある。辛口評価になっている。

大学との連携は先程の説明で理解した。内部評価で仕方がない面もあるかもしれないが、外部評価はもっとポジティブに考えたい。

(事務局)

事務局側でも、更に充実させたいという思いもあり、もっともっと広がった時点でA評価を付けたいという気持ちがある。

(事務局)

今回の評価は、新答申の初年度。概ね5年スパンで考え、5年後に最高パフォーマンスへ引き上げたいと考えている。また、来年、子ども図書館開館を予定している。来年度から本格的に取り組む事業もある。

(委員)

各図書館が地域性を生かした情報発信などに取り組み、大学との連携については市民が興味のある講座を実施し、市民センターとの情報交換など多様な施設とつながる図書館として評価する。

(委員)

他施設と連携したさまざまな取り組みにより、市民は情報を楽しみながら知識を深化できるので、図書館が情報の発信拠点として今後も期待している。

(委員)

外部評価では、もっとプラスに評価したい。

## ○視点2 市民の課題解決を支援する図書館

(委員)

市民要望では、「蔵書の充実」が高いが、どのような充実を求めているかの分析はしているか。

(事務局)

定期的に変書会議を開催し、市民リクエストを反映させている。市民からは、ノーベル賞作家、人気のある本、漫画本まで幅広いリクエストがある。ただし、予算やスペースの制約があるため、全てに対応することは難しい。

(委員)

学校でブックトークした場合、各クラスへブックトークした本を貸し出している。

是非、子ども達に読んでほしい本で紹介しているにも関わらず、市内図書館全館で3冊しかないような場合もある。足りない分は、学校購入してもらうか、自分の本を貸し出すかの悩みが、毎年発生する。

このような事実についても考慮してもらいたい。子ども図書館開館後は強化していただきたい。

市民要望で、「レファレンスの充実」が少ない。これはレファレンスが充実しているのか、期待していないのか、心配になる数字である。

探している本が見つければ、それがレファレンスなのか。私ももう少し考えたい。

(事務局)

図書館の基本的な役割は本の閲覧・貸し出しだが、調べ物学習ができることもPRしていきたい。

(委員)

相談内容のデータベース化も進んでいるか。

(事務局)

図書館ホームページへレファレンス事例集を掲載しているが、もっと充実させたい。

(委員)

レファレンスのデータベースや、日本十進分類法を基礎にしながらも、テーマ毎の配架にも取り組んでいることは評価する。

(委員)

レファレンスの強化として、相談内容のデータベース化やレファレンス担当職員の研修の実施、特色ある図書館づくりとして、市民のニーズに応じたコーナーや地域の特性や地域住民のニーズに応じたセミナーなど評価できる。

(委員)

市民が要望する特定テーマの関連書籍を一つのコーナーにまとめ利便性に配慮されたのは非常にわかりやすい。市民には様々な課題があり、図書を借りて解決するだけでなく、それを共通の課題として市民が交流できるような催しなどが望まれる。

(委員)

郷土資料などの特殊なものは、やはり図書館なのでもっと充実してほしい。

### ○視点3 子どもの読書活動を積極的に推進する図書館

(委員)

「はじめての絵本事業」絵本配布時、どのような説明を行っているのか。お話し会等は紹介しているのか。

(事務局)

母子健康手帳配布時は、様々な説明を行うため、長時間になる場合も多い。

そのため、『「はじめての絵本」で親子のふれあいを！』などの資料を、ゆったりとし

たひとつのきっかけづくりになればとの思いを込めて、絵本と一緒に配布している。

その中で、お話し会を説明し、各図書館連絡先も記載している。また、図書館カード申込書添付や親子ふれあいルームの紹介など行っている。

(委員)

まだ文字が読めない乳幼児に対する読書の実践講座、妊婦対象のお腹の赤ちゃんへの読み聞かせ講座などがあってもいいと思う。

家にある本、大事にしている本の簡単な修理のアドバイスできる図書館があってもいい。

(委員)

「はじめての絵本事業」は、配布率99.2%だが、配布数4,703件。「ブックスタート事業」は配布率65.6%だが、配布数5,337件。となっているがどうしてなのか。

昨年まで、保育園・幼稚園等で絵本配布していた頃は、必ず親子に対して読み聞かせしていた。母親に対して、配布した2冊だけでなく、他の本や図書館利用を勧めることができた。

また、お話をしていると、母親が子供の頃を思い出したり、子どもが本に興味を示してくれたりする。

単に配布物の一つとして渡すのであれば、残念である。妊娠時に渡すことが悪いではなく、読み方や子どもへの伝え方がわからなければ難しいと思う。

保護者の方に、「ブックスタートで本をもらいましたね」と聞いても「何のことですか」と答えられる。「母子健康手帳配布時に絵本もらいましたか」と聞いたら「そんな気がします」では、残念と思う。

(事務局)

「はじめての絵本事業」は、平成28年度案内を受けた方だけだが、「ブックスタート事業」は、平成27年度案内を受け取った方も含まれているので、それぞれの配布数が違ってきている。更に、その後のフォローも考えなければならない。

(委員)

地区市民センターでは、定期的に読み聞かせ講座を開催し、にぎわっている。

(委員)

図書館等の窓口で配布する際は、職員が一生懸命説明しようと努力していることも知って欲しい。

(委員)

先程、事務局が説明したように、読み聞かせのための司書やボランティアを派遣していることを、子育て施設や団体へPRできれば、もっと広がっていく。

(委員)

読書から離れていた方が、母になるのをきっかけに、再び本と出合うことになる「はじめての絵本事業」の取り組みは、高く評価できる。各図書館の絵本の読み聞かせやおはなし会などを定期的実施しており、評価できる。

(委員)

すべての子どもに平等の知識が与えられるような公立図書館の役割は大きい。未来の人材を育成する重要課題として、図書館職員や家庭、地域全体が読書に親しむ環境づくりに取り組んでもらいたい。

(委員)

配布率が上がるだけでなく、その後のフォローも考えていただきたい。

#### ○視点4 誰もが使いやすく、人や情報が交流する図書館

(委員)

郷土資料デジタル化の検討は、どの程度まで進んでいるのか。

(事務局)

マイクロフィルム化する方法等は、高額な費用が必要される。データを読み込むだけの手法もあるが、国立国会図書館でもあまり進んでいないと思う。

専門職員の育成から始めなければならないなど課題として認識しているが、難しいことも理解していただきたい。

(委員)

戸畑の青空運動でも廃棄してしまった資料が多数ある。私物化するわけにはいかず、地域で保管できれば良かったが難しい。できるものは進めていただきたい。

(事務局)

小笠原藩時代のもの、門司新報などデジタル化しなければ保存できない。難しい課題とは理解しながら、あえて「図書館サービスのあり方について」答申へ組み込んだ。

スキャンして取り組むことができて、どれを選別するかなど、マンパワーが必要となる。

門司新報の場合、国の補助金を活用した。本当にマンパワーが必要となる。内容を見極めながら少しずつでも進めていきたい。

(委員)

今からのスタートなので、長い目で注目して行きたい。

(委員)

Wi-Fi環境は、どのくらい進んでいるか。ホームページは、スマートフォン対応なのか。個人的な印象だが、中央図書館カフェテリアは、非常に良いので、図書館利用者にもっと知ってもらえるように工夫できないか。

(事務局)

Wi-Fi環境は、八幡西図書館、八幡図書館、中央図書館の一部で整備している。小倉南図書館など新しく整備する図書館では、順次整備することを考えている。

図書館ホームページはスマートフォンで見やすいように変更していく。カフェテリアについても考えていきたい。

(委員)

ホームページについて情報を見に行くのではなく、情報を発信する工夫ができないか。

(事務局)

メルマガ等を想定されていると思うが、情報を整理しながら、今後研究させていただきたい。

(事務局)

まだ地区図書館のホームページがないので、そこから手を付けたいと考えている。

(委員)

施設の快適さや情報化への対応や返却サービスが充実し、イベントや講座で図書館独自の運営がされている。

(委員)

図書館を利用することで心身ともに健康増進になる多くのメリットがあることをキャッチしてもらえるよう、楽しい情報発信を望む。何より行きたくなる図書館を目指してホームページの充実をしてほしい。

(委員)

スマホ対応のホームページが充実すると良いと思う。

(委員)

カフェテリアは雰囲気があるので、会合後、立ち寄るようになった。ついでに本を借りることが増えた。

## ○視点5 市民参画型図書館

(委員)

読み聞かせボランティア、図書館ボランティアについて、どう考えているか。

(事務局)

平成13年から読み聞かせボランティア、図書館ボランティア養成講座を開催している。

現在、登録図書館ボランティア303名、年間活動延日数6,366日。つまり、図書館ボランティアなくしては、図書館運営は成り立たないところまで来ている。

読み聞かせボランティアは、市民センター、保育所、介護施設など、様々な施設から要請が来ている。今後も初心者から経験者まで研修を進めていく。

ブックヘルパーは、子ども図書館と学校図書館の連携の中で、重要な地位を占めていくので、養成に力を入れていきたい。

(委員)

ブックヘルパー養成講座では、司書等の資格は必要か。

(事務局)

必要ない。

(委員)

市民センターと連携し、全市民センターでボランティア養成講座を開催する。年1回、中央図書館で集まるとかを考えられないか。

市民センターは何でもできるので、もっと活用したらいい。連携しながら、市民で、



できることは市民で行うことが大切。

(事務局)

子ども読書活動推進には、子育て施設との連携は不可欠。そのためには、ボランティアの育成が必要。人を養成して派遣を増やしていく。

そのため答申でも、地区図書館活用を挙げている。中央図書館は一つしかないが、地区図書館であれば、地域との連携が進んでいく。

(委員)

市民センターの本が古い。

(事務局)

ひまわり文庫本は、市民センターの本の一部でしかない。多数は市民センター独自の本。ひまわり文庫も充実したいが、予算や配架スペースの問題がある。

(委員)

地区市民センターでは、親子が「読んだ本ばかり」と話している。やはり予算の問題が大きいか。

(事務局)

図書館年報へ図書購入費が掲載されているが、市民へのリクエストは、一般書、専門書、海外本と多岐に亘る。全国政令市館長会議でも、いつも蔵書の充実が話題になる。

(委員)

図書館ボランティアや読み聞かせボランティア等の取り組みについて評価できる。読み聞かせボランティアバンクの設立に期待する。

(委員)

情報を自ら集めないといけないので、市民参画に関しての情報発信ができれば良いと思う。

(会長)

最後に、事務局から連絡事項をお願いする。

(事務局)

これまでも「図書館について（公共施設マネジメント）」を報告してきた。現在の状況を報告する。

戸畑分館は来年4月閉館。国際友好記念図書館は同じく来年4月閉館後、産業経済局へ移管し、観光施設してリニューアルされる。

子ども図書館整備に伴い、勝山分館は本年9月閉館し、視聴覚センターは本年10月教育センターへ移転オープンした。子ども図書館は来年開館の予定である。

また、門司図書館・戸畑図書館の次期指定管理者について、現在選定作業中である。平成29年12月議会での議決を経て正式決定する。

本日は、ありがとうございました。

(参考)

- ・平成29年度第2回北九州市立図書館協議会 資料
- 資料1 北九州市の図書館（年報）平成29年
- 資料2 北九州市立図書館の運営に関する評価平成28年度  
（※別途、市ホームページ掲載）